

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 金曜日・3校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(人の老化と死、高齢期社会を生きる) Human Sciences(Aging and Death)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員 中園 一郎 / Eメールアドレス: nakasono@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 医学部基礎棟6階 / TEL:095-819-7076 /オフィスアワー: 16:30~17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	下川 功、森 俊介、内村 公義、池松 和哉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 「人の死」および「人の老化」の理解と「尊厳死」などの死生学並びに高齢期社会のあり方(生き方)等について考える上での基礎的知識の習得 授業方法: プリントなどの資料を用いるとともに、実際の症例等を提示して講義を行う 授業到達目標: 「人の死」、「人の老化」について理解でき、「尊厳死」などの死生学について自らの考えを構築する。また、高齢期社会のあり方(生き方)について考察する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 「人の老化と死」について病理・細胞生物学的に概説し、尊厳死などの死生学(タナトロジー)に関する入門的講義を行う。また、高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを考察する。 第1回-3回:人の死について(1)(中園) 人の生から死への過程を概説し、脳死および植物状態について理解を深め、人の死とは何かを考える。 第4回-5回:人の死について(2)(池松) 乳幼児や成人に発症する突然死例を呈示し、人の突然の死について考える。 第6回-8回:細胞における老化現象(下川) 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために、これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し、それぞれを概説する。また、脳の老化と神経細胞の老化について認知症やアルツハイマー病などの症例を呈示する。 第9回-14回:高齢期社会を生きる(森、内村) 「安心して死ぬ」とは、たとえ障害があろうと、一人暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく、自分の意思で自分の死に場所が選べることである。そのような地域を実現するためには、保健、医療、福祉の連携が当然であるが、地域社会の再構築が必須である。そのキーワードとなる「人は生まれ、そして死んでゆく」という人にとって絶対的なことについて死生学も含めて考える。 第15回:まとめ			
キーワード	人の老化、人の死、尊厳死、死生学、高齢期社会		
教科書・教材・参考書	教科書を用いず授業内容に沿ったプリント(資料)を配布する。参考図書などを適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	講義時間内、あるいは後に小テスト(30%)やレポート提出(70%)により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			